PART3　活用の行を覚えておくべき動詞

★「活用の行」を覚えておくべき動詞九個

●射る・鋳る＝　　行上一段活用
●**得**（う）・心**得**（こころう）・所**得**（ところう）＝　　行下二段活用
●植（う）う・飢（う）う・据（す）う＝　　行下二段活用
●老（お）ゆ・悔（く）ゆ・報（むく）ゆ＝　**ヤ行**上二段活用

植うず

老いず

問三　傍線部ａ・ｂ・ｃ・ｄ・ｅの動詞の活用の種類として最も適切なものを、次の中から一つずつ選べ。

事あらむ人は、植う[a]べからぬ草なり。
一人ゐ[b]て、物を食ひ…
あちこちねぢむきて、人に見え[c]けり。
よき味方を得[d]たり。
「射る[e]事なかれ」

ア　ア行四段活用　　イ　ア行上二段活用　　ウ　ア行下二段活用　　エ　ハ行四段活用
オ　マ行上一段活用　　カ　マ行下二段活用　　キ　ヤ行上一段活用　　ク　ヤ行下二段活用
ケ　ワ行上一段活用　　コ　ワ行下二段活用

ａ＝　　ｂ＝　　ｃ＝　　ｄ＝　　ｅ＝

問四　「この事を悔いて、死にたる…」の傍線部の活用の種類を答えよ。

問五　空欄 a ～ c は現代語では、aは「据える」、bは「出る」、cは「老いる」に相当する。それぞれ最も適当なひらがな一字で答えよ。（歴史的仮名遣いに注意すること。）

われをおとなにしす［ a ］て、
立ち出［ b ］るほどのここち、
日ぐらし、父の老［ c ］おとろへて、

a＝　　b＝　　c＝

〈Memo〉

第4講 PART3 確認問題

①　傍線部の活用の行として最も適当なものを、次の中から選べ。

「心得ず思(おぼ)しめされつらめども、…」

ア　ア行　イ　ハ行　ウ　ヤ行　エ　ワ行

②　傍線部の活用の種類として最も適当なものを、次の中から選べ。

「さやうにこそ悔いたまふをりをりありしか。」

ア　ア行上一段活用　イ　ア行下二段活用
ウ　ヤ行上一段活用　エ　ヤ行上二段活用

③「むかし、男、人の前栽に菊植□けるに、…」の□に入るひらがな一文字を次の中から選べ。

ア　ゐ　イ　え　ウ　へ　エ　ゑ

④ 傍線部の活用の種類として最も適当なものを、次の中から選べ。

「心さかしき者、念じて射んとすれども、…」

ア　ヤ行上一段活用　　イ　ヤ行上二段活用

ウ　ワ行上一段活用　　エ　ワ行上二段活用

⑤ 傍線部と活用の行が同じものを、次の中から選べ。

「あななひにあげ据ゑられたり」

ア　所得（ところう）　　イ　笑む

ウ　率る　　エ　居り

第4講　PART3　解答

問三　a　コ　b　ケ　c　ク　d　ウ　e　キ

問四　ヤ行上二段活用

問五　a　ゑ　b　づ　c　い

第4講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「心得」はア行下二段活用動詞。

② 「悔い」はヤ行上二段活用動詞「悔ゆ」の連用形。

③ 「植う」はワ行下二段活用。下に「けるに」と続くので、連用形の「植ゑ」となる。

④ 「射（ん）」はヤ行上一段活用動詞「射る」の未然形。

⑤ 「据う」と「率る（ゐる）」の活用の行はワ行。「所得」はア行、「笑む」はマ行、「居り」はラ行。

〔解答〕

① ア　② エ　③ エ　④ ア　⑤ ウ